

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

2015 年度事業報告書



●第13回おかやまホタルフォーラム（オルガホール）



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**
Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

2015年度の事業報告

(2015年4月1日～2016年3月31日)

はじめに

1. 事業実施にあたっては、参加を増やし裾野を広げることを目指し企画をすすめた結果、8年連続で事業参加者が増え、他団体や行政等との協働、連携も大きくすすみました。
2. 2015年度新設した『里海づくり推進部会』に、団体、有識者、漁協、行政担当者、事業者が集い、アマモシンポジウム開催の成功等、ネットワークの推進につながりました。
3. 昨年度より準備をすすめてきた『おかやまのホタルをよむ～市民によるホタルの保護～』を出版しました。

1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

①. 助成事業

1) 助成活動報告会

6月6日(土)にオルガにて、岡山県下で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動を紹介してさらなる活性化、相互のネットワーク形成をめざし開催し、37名が参加されました。2014年度助成を受けた全10団体(共存の森ネットワーク、あかいわ美土里の和、里海づくり研究会議、千年の森づくりグループ、旭川源流大学実行委員会、岡山野生生物調査会、中学高校環境研究会、おかやまエコマインドネットワーク、あかいわエコメッセ、おかやまコープ備北エリア)からの報告と、おかやま環境ネットワーク役員からの感想、参加者間の質疑応答と情報交換をすすめました。



●助成活動報告会

2015年度助成を受ける団体の代表の皆様

2) 助成部会

助成活動報告会の概要、助成募集要項について検討をすすめ、2016年度助成応募の審査を行いました。

3) 助成実績

2015年度は11団体に174.7万円助成しました。1999年からの17年累計で、190団体に1,989.68万円を助成しました。

●助成実績一覧 ※金額：万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
13	8	102.3
14	10	125.68
15	11	174.7
合計	190	1,989.68

●2015年度助成事業・企画一覧

	団体名	企画名
1	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
2	アユモドキ里親会	アユモドキ教本作成プロジェクト
3	児島湾研究会	児島湾漁民の特異性調査・冊子作成
4	千年の森づくりグループ	みんなで楽しめるビオトープの森づくり！
5	あかいわエコメッセ	第17回あかいわエコメッセ(環境企画展)
6	岡山野生生物調査会	旭川河口域及び児島湾の生物調査
7	中学高校環境研究会	旭川流域での生き物・地史調査
8	旭川源流大学実行委員会	旭川流域のオオサンショウウオ調査
9	里海づくり研究会議	沿岸海域における物質循環の促進
10	共存の森ネットワーク	アマモ場再生活動と日生の漁食調査を通じた人材育成
11	おかやまユブ井笠E7	今のくらしを見直し環境にやさしいくらしを広めよう

②. ホタル団体交流会・第12回ホタルフォーラム

1) ホタル団体交流会

年3回開催(4月18日(土):20名参加、7月4日(土):15名参加、1月9日(土):14参加)し、ホタルの保全活動とおとした環境保全活動の交流をすすめる、冊子『おかやまのホタルをよむ～ホタル保護の歴史～』の作成や、ホタルフォーラムの運営について検討をすすめました。

2) ホタルフォーラム

3月5日(土)に第13回ホタルフォーラムを、オルガホールにて、岡山市、岡山自然を守る会との共催で開催し、101名(29団体)が参加されました。冒頭、岡山市副市長・横山忠弘様、並びに青山勳代表理事より挨拶がありました。その後、兵庫県立人と自然の博物館・八木剛氏の基調講演『ヒメボタルの特徴と保全』、倉敷市児島・岡本勇氏の報告『蛍遊の水辺由加のヒメボタル』、岡山自然を守る会・友延栄一氏の報告『岡山市内のまちなかホタル』、岡山市環境保全課・内藤元久氏の報告『岡山市におけるホタルの取組』と、青山勳代表理事をコーディネーターに質疑応答しました。その他、会場内で故・梶田博司氏(元川崎医療福祉大学教授・元おかやま環境ネットワーク理事)所有の写真・各種資料展示や、倉敷市児島・岡本勇氏の資料展示、岡山市環境保全課の資料展示がありました。午後からは、「岡山自然を守る会」が保全に取り組む能登川用水を視察しました。

3) おかやまのホタルをよむ編集会議

今年度4回開催し、青山勳代表理事を中心に冊子『おかやまのホタルをよむ～ホタル保護の歴史～』の編集をすすめる、2月に出版しました。

③. 自然環境の研究・交流

1) 里海づくり推進部会(2015年度新設)

アマモシンポジウム企画検討や、参加メンバーの取り組み交流等をすすめました。

2) アマモ場再生活動30周年記念シンポジウム

10月10日(土)に『地域と世代をつなぐ』をテーマに、日生町漁業協同組合にて、岡山県内のアマモに関する保全活動のネットワークを促進させるため、活動に関わる団体、研究者、市民、事業者、行政等が集い、アマモの役割やその重要性、保全等について情報交換、交流をすすめる、更なる活動の発展をめざし、里海づくり推進部会の企画・運営のもと開催し、125名が参加されました。

冒頭、主催者を代表しおかやま環境ネットワーク里海づくり推進部会・田中丈裕部会長より主旨説明の後、日生町漁業協同組合・淵本重廣代表理事組合長、生活協同組合おかやまコープ・平田昌三理事長よりご挨拶



●第13回ホタルフォーラム八木剛氏講演



●『おかやまのホタルをよむ』



●アマモシンポジウム会場の様子



●日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏

いただいた後、日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏基調報告『アマモ場再生活動 30年の歩み』、事例報告として、笠岡地区漁業連絡協議会会員（笠岡味市漁業協同組合北木島支所長）・藤井和乎氏『豊かな海への漁師のチャレンジ！～笠岡の海でのアマモ場造成活動～』、神島寺間見崎里浜づくり代表・森中憲治氏『アマモ場づくりの動機と活動の展開』、笠岡工業高等学校環境土木科・田中悠矢・藤井就造氏『笠岡湾におけるアマモ場再生への取組』、生活協同組合おかやまコープ井笠エリア・金高さおり氏『子どもたちに手渡したいアマモのある海』、岡山市立小串小学校・西浦和佳・松中優奈さん『見つめ直そう私たちの小串～ふるさと小串の海を守るために自分たちにできること～』、備前市立日生中学校教諭・藤田孝志氏『人と海に学び、豊かな感性を育てる海洋学習』、海洋建設(株)水産環境研究所・研究調査部長・片山貴之氏『アマモ場が作る豊かな海』があり、田中文裕氏をコーディネーターに参加者との意見交換を行い、最後にままかり普及委員会代表・林宗男氏から『マカリン』出版紹介がありました。

3) 旭川流域部会

体験プログラム企画検討や、参加メンバーの取り組み、調査研究活動の交流等をすすめ、「旭川かいぼり調査パンフレット第2版」と「高島干潟の役割パンフレット」を作成しました。

④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- 1) 「おかやま環境ネットワークニュース」を年4回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
- 2) 月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
- 3) メールニュースの登録者数は1,459名となり、各事業の参加者増加につながっています。
- 4) 活動紹介パンフレットや事業・決算報告書をいろいろな機会に配布し、活動紹介や会員獲得を図り、34会員（個人・団体・企業）の入会がありました。

⑤. 環境家計簿の普及

- 1) 環境家計簿委員会：環境家計簿モニター実績をまとめ、「環境家計簿レポート」や「環境家計簿カレンダー」の原稿を作成しました。
- 2) 2014年のモニター実績報告をまとめた「環境家計簿レポート」を7月に岡山市と協働で発行しました。報告は482世帯からあり、その内2013年と2014年の2年間分の全データが揃ったのは248世帯、CO₂排出量は前年比3.3%削減、1世帯当たり299-CO₂kgの削減につながりました。
- 3) 2015年のモニター登録数は、未報告世帯の登録を取り消したため、前年度1,179世帯から744世帯に減少しました。
- 4) 暮らしの見直し啓発ツールとして、11月に「環境家計簿カレンダー」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに送付しました。



●ネットワークニュース No.80



●環境家計簿カレンダー2016



●環境家計簿レポート

2. 啓発事業

①. 市民のための環境講座

市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に開催しました。12回シリーズで、岡山県生涯学習大学指定のもと開催し、過去最多の280名が参加されました。第1~4回は、神島寺間・見崎里浜づくりと生活協同組合おかやまコープ井笠エリアとの共催、第5回は岡山市エコ技術研究会との共催で開催しました。

・講師とテーマ

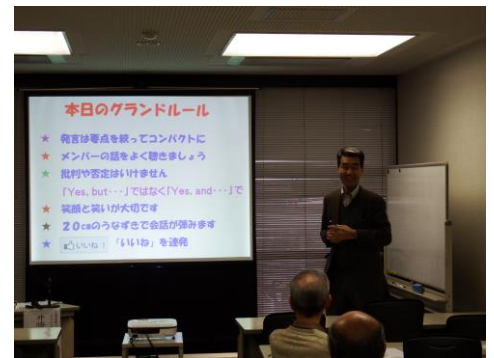
- 1) 5月22日(金) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏『アマモ再生教室①現地観察会と取組学習』20名参加
- 2) 8月17日(月) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏『アマモ再生教室②種選別』34名参加
- 3) 10月16日(金) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏『アマモ再生教室③育苗キット製作体験』15名参加
- 4) 1月24日(日) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏『アマモ再生教室④苗定植体験』33名参加
- 5) 9月5日(土) 岡山市エコ技術研究会理事・稲見圭紅氏『捨ててはいけない! ~食品ロス問題を考える~』22名参加
- 6) 10月2日(金)元岡山大学准教授(おかやま環境ネットワーク理事)・白井浩子氏『公正を実現しつつ豊かで持続可能な社会へ~全体(限度)をつかむことの大事さ~』14名参加
- 7) 10月3日(土) 就実学園理事長(おかやま環境ネットワーク理事)・千葉喬三氏『環境とは何か』28名参加
- 8) 11月7日(土) 岡山理科大学理学部特任教授(おかやま環境ネットワーク理事)・野上祐作氏『環境を知るための市民の化学』20名参加
- 9) 12月12日(土) 岡山県農林水産総合センター水産研究所研究員・高木秀蔵氏『瀬戸内海の水産資源を取り戻す』27名参加
- 10) 1月30日(土) 香川大学農学部教授・多田邦尚氏『瀬戸内海の水産資源を取り戻す』36名参加
- 11) 2月13日(土) 吉備国際大学社会科学部教授(おかやま環境ネットワーク理事)・井勝久喜氏『環境問題を捉える視点~参加型講座~』12名参加
- 12) 2月27日(土) 岡山大学名誉教授(おかやま環境ネットワーク代表理事)・青山勲氏『持続可能な社会の構築に向けて~自然と人間の共生~』19名参加



●市民のための環境講座
千葉 喬三 氏



●市民のための環境講座
野上 祐作 氏



●市民のための環境講座
井勝 久喜 氏



●市民のための環境講座
『アマモ再生教室』

②. 体験プログラム

次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段のくらしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

・第1回：5月30日(土)『児島蛭遊の水辺・由加ホテル観察会』

倉敷市児島蛭遊の水辺・由加にて、倉敷市建設局土木課公園緑地課非常勤嘱託職員・岡本勇氏、倉敷市児島由加東自治会会長、蛭遊会会長・生田岩雄氏を講師に蛭遊会、生活協同組合おかやまコープ倉敷エリアと共催で開催し、30名が参加されました。

当日は、講師によるホテルの生態系や現地の自然環境、植物や保全活動について解説を聴きながら、水路に沿ってホテルや植物を観察しました。

・第2回：7月11日(土)『海ホテル夜間観察会』

自然にふれる体験を通じ、いきもののいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、自然の役割や海の現状など、くらしと自然環境の関わりを理解することを目的に、倉敷市大浜海岸にて開催し、58名が参加されました。

当日は、関西高校講師・吉鷹一郎氏を講師に、現地の自然環境やいきものについての解説の後、3班に分かれ、岡山野生生物調査会、岡山理科大学附属高校の指導のもと、えさを入れた手製のしかけを海に沈めて採集しました。しかけにはたくさんの海ホテルが入っており、刺激を与えると、青い光が一気に広がり、神秘的な夜の海の不思議を体験しました。

・第3回：7月29日(水)『漁業を通して瀬戸内の海を知ろう』

台風接近に伴う影響により、中止しました。

・第4回：8月9日(日)『蒜山の百万年の自然の歴史を調べよう』

当日は、岡山理科大学理学部教授・山口一裕氏、関西高校講師・吉鷹一郎氏を講師に、岡山野生生物調査会、岡山理科大学生・附属高等学校生徒の皆さんの指導のもと、驚きの自然環境が残る旭川源流で、専門家の楽しい解説を聞きながら、昭和化学工業株式会社岡山工場にて珪藻土露天堀場の見学、津黒いきものふれあいの里にてササユリ館の見学と水辺のいきもの採集・観察、山乗溪谷の見学、湯原ハンザキセンターの見学をし、65名が参加されました。



● 『海ホテル夜間観察会』



● 『蒜山の百万年の自然の歴史を調べよう』



● 『蒜山の百万年の自然の歴史を調べよう』



● 『高島干潟いきもの観察会』

- 第5回：8月12日(水)『高島干潟いきもの観察会』
 当日は、児島湾高島干潟にて、齋藤達昭氏（岡山理科大学理学部准教授）、吉鷹一郎氏（関西高校講師）を講師に、干潟の役割や現地のいきものについての解説の後、実際に干潟の中に入り、いきもの採集体験と、採集できたいきもの解説を聴き、51名が参加されました。
- 第6回：8月5日(水)『みつばち農園学習エコツアー』
 生活協同組合おかやまコープ倉敷エリアと共催で開催し、44名が参加しました。
 当日は、バスの中でエコライフに関するクイズ大会とくらしきエコアクションについての解説、並びに「アマモの恵み」DVDを鑑賞し、男女山公園の風力発電所の見学の後、山田養蜂場みつばち農園にて、みつばちの役割、自然との共生等のお話を聞き、面布を付けて採集体験をしました。
- 第7回：8月7日(金)『伊部つながりの森へ行こう』
 生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアと共催で開催し、43名が参加されました。
 当日は、(株)ハウジング山陽取締役・安田年一氏指導のもと、伊部つながりの森にて、現地概要の解説を聞いた後、森の探検、檜の間伐・皮むき体験、間伐材を使用した木工クラフト（えんぴつ・ハンガー作成）、スタンプラリーを体験しました。
- 第8回：10月10日(土)『アマモ種選別・種まき体験プログラム』
 日生町漁業協同組合の協力のもと、里海づくり推進部会主催で開催し、103名が参加されました。
 当日は、前半、アマモ種選別を行い、後半、14グループに分かれ、船の上から種をまきました。
- 第9回：10月10日(土)『アマモ播種ポット製作体験プログラム』
 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏の指導のもと開催し、32名が参加されました。
 当日は、参加者各自で播種ポットを2個作成し、持ち帰り、成長の過程を観察しました。
- 第10回：11月1日(日)『旭川かいぼり調査2015』
 岡山市北区・竹枝小学校横の旭川河川敷にて、いきもの調査を、竹枝学区ふるさと活性化協議会、他の多くの団体等と共催で開催し、400名が参加されました。
 当日は、旭川本流河川敷と中洲の間を一時的にせき止めて、生き物調査を行い、午後からは採集したいきもの解説を聴き、その後全員で、川底の石を返し、



● 『みつばち農園学習エコツアー』



● 『伊部つながりの森へ行こう』



● 『アマモ種選別体験』



● 『アマモ播種ポット製作体験』

川を耕し、ゴミ拾いをしました。絶滅が危惧されるアカザやカジカを含む24種類の魚と36種類の水生昆虫を確認しました。

また、「旭川かいぼり調査パンフレット(第2版)」を作成し、参加者をはじめ学校等にも配布しました。

・第11回：『省エネ体験エコツアー』

2月1日(月)、岡山市と共催で、省エネ設備の見学をとおり、省エネ対策に関する情報交換・交流の場の提供と環境保全活動の推進に資することをめざし開催し、20名が参加されました。

当日は、岡山市立総合医療センター岡山市市民病院と、ヤンマーエネルギーシステム製造株式会社を見学しました。



● 『旭川かいぼり調査2015』

3. 他団体や行政などとの関係

①. 水環境フォーラム in 岡山

第11回は、7月4日(土)、(社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で、『水環境中での抗生物質と耐性菌について考える』をテーマに開催し、20名が参加されました。

当日は、龍谷大学・越川博元氏『河川に存在する抗生物質耐性細菌』、愛媛大学・治多伸介氏『日本の農村地域における抗生物質を含む生活由来医薬品による汚染実態』、岡山大学・永禮英明氏『抗生物質流入に対応した下水処理プロセスの開発』の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

第12回は、2月27日(土)『児島湾の窒素循環の現状と問題点を考える』をテーマに開催し、44名が参加されました。

当日は、岡山県農林水産総合センター水産研究所・高木秀蔵氏『瀬戸内海における無機態窒素の減少と水産資源に対する影響』、海洋建設(株)水産環境研究所・片山貴之氏『生物による有機物の取込・分解能力の定量化について』、国土交通省岡山河川事務所・野津善英氏『旭川と吉井川における水質測定値の変遷について』、岡山県環境保健センター・藤田和男氏『児島湖に流れ込む窒素の発生源単位の割合と児島湖から流れ込む窒素量の変遷』、岡山市下水道施設管理課・大月孝将氏『岡山市の下水道の現状について』の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。



●省エネ体験エコツアー



●第12回「水環境フォーラム in 岡山」

②. 足守ほたるの集い

9月26日(土)、岡山市立足守公民館にて、岡山市と共催し30名が参加されました。

当日は、岡山市環境保全課より足守の環境に関する概要の説明と、「足守を守る会」、「大井しいの木



●足守ほたるの集い

いきいき会」、「リフレッシュ福谷」の3団体から活動紹介があり、その後3グループに分かれてのワークショップにて、課題などを話し合い、最後におかやま環境ネットワーク青山勳代表理事より、全体講評がありました。

③. 行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山E S D推進協議会運営委員会」、「アマモサミット2016 in 備前実行委員会」へ参加し、役割を發揮しました。
- ・神島寺間・見崎里浜づくりと生活協同組合おかやまコープ井笠エリア、岡山市エコ技術研究会との共催で、岡山県生涯学習大学指定のもと「市民のための環境講座」を開催しました。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。
- ・岡山市と共催で「足守ホテルの集い」、「省エネツアー」、「ホテルフォーラム」を開催しました。

④. 寄附等

- ・全日信販株式会社より 16,064 円、住宅エコポイント事業より 2,718 円、個人 4 名様から 8,000 円のご寄附をいただきました。

4. 法人管理・会計等

①. 公益財団法人定期報告と役員変更登記等

- ・公益財団法人として、定期報告を行政に行い、一部役員の変更登記を行いました。
- ・12月17日に岡山県による「公益法人立入検査」があり、指摘事項等はありませんでした。

②. 会員の状況

	団体	個人	企業等	合計
2015年度末	50	122	42	214
2014年度末	49	111	44	204

2015年度入会の状況

	団体	個人	企業等	合計
入会	3	30	1	34

③. 財政

- ・経常収益は、ほぼ予算通りとなりました。経常費用は、事業実施にあたり他の団体等との協働により事業費が見込みより減額できたことや、体験プログラムが天候不良により中止になったことなどにより、予算を42万円下回りました。
- ・2015年度収支予算は、2013年度正味財産増加分（114万円の黒字）の相殺と、冊子『おかやまのホタルをよむ』の出版費用を含め230万円の赤字予算としていましたが、152万円の赤字に留まりました。

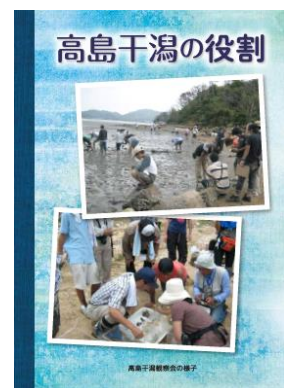
●各種出版物



「アマモシンポジウム」資料



「旭川かいほり調査」パンフ



「高島干潟の役割」パンフ

公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

平成28(2016)年3月31日現在

理事

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	赤坂 光俊	生活協同組合おかやまコープ監事
3	秋山 秀行	(株)大町代表取締役社長
4	井勝 久喜	吉備国際大学教授
5	清水 善朗	弁護士
6	白井 浩子	日本科学者会議岡山支部会員
7	塩飽 敏史	公益財団法人水島地域環境再生財団理事・研究員
8	上甲 啓一	生活協同組合おかやまコープ執行役員
9	千葉 喬三	学校法人加計学園相談役
10	梅崎 一夫	生活協同組合おかやまコープ職員
11	野上 祐作	岡山理科大学特任教授
12	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
13	三村 健	サンコー印刷(株)相談役

以上、理事13名 (50音順)

代表理事:青山 勳、業務執行理事:上甲 啓一、梅崎 一夫

評議員

	氏名	略歴等
1	伊藤 國彦	岡山県立大学名誉教授
2	大山 健二	岡山大学生生活協同組合専務理事
3	北川 文夫	岡山理科大学教授
4	小橋 賢之	(株)建美装社代表取締役
5	近藤 紗智子	岡山の緑と水と空気を守る連絡会会員
6	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
7	日野 進一郎	日野環境デザイン研究所代表
8	檜山 伸吾	児島湖流域エコウェブ理事
9	平田 まき子	加計学園水質管理室
10	福留 正治	岡山環境カウンセラー協会顧問
11	藤田 賢治	(株)フジタ地質代表取締役
12	宮本 紀子	生活協同組合おかやまコープ有識者理事

以上、評議員12名 (50音順)

監事

	氏名	略歴等
1	岡本 秀雄	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麺株式会社代表取締役

以上、監事2名 (50音順)

顧問

	氏名	略歴等
1	奥田 節夫	京都大学名誉教授
2	河原 長美	岡山大学名誉教授
3	佐藤 國康	川崎医科大学名誉教授

以上、顧問3名 (50音順)